

「人は一人では生きていけない」使徒言行録 27 章 21～26 節

今日は収穫感謝日礼拝です。今日は使徒言行録から神さまの語りかけて下さる言葉を聞きたいと思います。今日の聖書のお話は、伝道者パウロが3回大きな伝道旅行をし、地中海周辺の広大な地域を支配していたローマ帝国の各地、特に今のトルコからギリシャの各地にキリスト教会を立て、最後にエルサレムから世界帝国と言われていたローマ帝国の都ローマにイエスさまの救いを伝えるために、船で旅をするのですが、そこで暴風に襲われて、船が流され、沈みそうになる危機の時のお話です。

パウロはエルサレムでユダヤ教徒から迫害を受け、暴動になり、逮捕され、2年間投獄されます。パウロはローマの市民権を持っていたので、ローマ皇帝に上告します。囚われた状態でもいいから、ローマ帝国の都ローマに行き、キリストの福音を宣べ伝えるためです。

紀元59年の秋に、パウロたちは船でイスラエル北部のカイザリヤの港を出発し、クレタ島の「よい港」と呼ばれる港に入りました。ここはクレタ島中央南部にある港で、夏の間に安全に停泊するのはとても良い港とされていました。その港については10月5日でした。地中海は9月15日頃から海が荒れて来て、当時の帆をはった船では地中海の航海は危険だとされていました。11月11日から翌年の3月10日までは危険なので、航海は禁止されていたのです。船乗りたちはこのよい港は冬を越すには適していないので、同じクレタ島の南西側にあるフェニクスの港を目指そうと言いました。パウロは今から航海するのは危険だ、みんなの命が失われることになるかと反対しましたが、リーダーである、海の事には素人のローマの百人隊長は船乗りたちの意見を採用し、船は出発しました。出発してしばらくすると、クレタ島の高い山から暴風が吹き下ろしてきて、逆風になり、船は前に進めなくなり、風に流されるままになりました。結局、14日間も暴風で船は西へ西へと流され、イタリア半島の靴の形の先のあたり、シチリア島の近くにある小さなマルタ島まで流され、船は難破することになるのです。

よい港を出発して暴風により、船はコントロールを失い、まず3日間、漂流しました。当時の木造の帆船は嵐に会うと船体がバラバラになってしまうので、船員たちは綱で船体をしばったり、積み荷を捨てて、船体を軽くしたりして、あとは流されるままにまかせました。3日たっても嵐は止まず、どこに流されていくのかもわからず、いつ船が沈むことになるかと思いつつ、船に乗っている人たちは皆、不安で不安で仕方ありませんでした。そんな危機的な状況の中で、パウロは船に乗っている276人の人たちを励ますのです。

パウロはみんなに語りかけます。出発する時に、「今船で旅をするのは危険で、みんなの命を危険にさらすことになるかとあれほど警告したのに、誰も私の言う事を聞いてくれなかった」と。これだけだったら、ただの愚痴に過ぎません。しかしもう今更言ってもどうしようもないし、過去の判断ミスを問うよりも、今は目の前にある危機をどう乗り越えるのかを考える方が先です。この絶望的

な状況の中で、パウロはみんなに元気を出すようにと励まします。たとえ、この船を失っても、みんなの命は失われることはないだろうとパウロは言ったのです。船に乗っていたみんなはこの言葉をどう聞いたでしょうか。「何を言ってるんだ。一体何を根拠にそんな気休めを言うのか」と思った事でしょう。しかしパウロは何の根拠もなく、気休めで、こんなことを言っているのではないのです。パウロには信仰の確信があったのです。とっても強い信仰の確信です。パウロは嵐の中で、昨夜、夢を見ました。その中で、神の天使が現れ、神さまの言葉を伝えてくれたのです。24節を原文から直訳するところになります。「パウロ、恐れるな。あなたは必ず皇帝の前に出頭しなければならない。そして見よ、神と一緒に航海しているすべての者を、あなたに任せてくださったのだ」と。「そして見よ」という言葉が原文にはありますが、これは驚くべき方法で神が介入され、新しい事態に変わることを表す言葉です。

「パウロがローマ帝国の都ローマに行って、イエス・キリストの救いを宣べ伝えるのは神のご計画なのだ。だから必ずパウロはローマ皇帝の前に出頭することになる。パウロのゆえに、この船に乗っているすべての人の命も救われる」という神の言葉をパウロは聞いたのです。都ローマでイエス・キリストの救いを宣べ伝えさせるパウロをここで死なせるわけにはいかないというのが神さまの御心だ。そのパウロのゆえに船に乗っている他の全員の命も救われるという神の奇跡が起こるといいます。

25節「ですから皆さん、元気を出しなさい。わたしは神を信じています。わたしに告げられたことは、その通りになります。」26節にも必然を表す「必ず」という言葉がついています。パウロは神さまから告げられた言葉は必ず実現すると確信しています。だからこの絶望的な状況の中で、みんなに生きる希望を力強く語り、元気を取り戻させようとしたのです。パウロの確信に満ちた言葉、しかもそれが彼の信じている神の言葉だと知った人々はとても勇気づけられました。パウロはいつも神さまの言葉を聞いています。神さまは生きて働くことが出来る方であり、神の語られた言葉は必ず実現すると信じています。そういう強い信仰を持っているので、危機に陥って、慌てふためかずに、みんなが絶望していく中で、希望を失わず、みんなを励まし続けることができたのです。

創世記にも書いてあるように、私たち人間は一人では生きていけません。創造主である神さまは誰かと一緒に支え合って生きるように、人間をつくってくださったのです。もちろん他者と一緒に生きていこうとすると、お互いに違いがあるので、時にはお互いに傷つけあったりしてしまうことがあるかもしれません。それでもなお神さまは私たち人間がお互いに助け合い、支え合って生きる様に招いておられるのです。

今日は収穫感謝日礼拝です。私たちは神さまの与えて下さった食べ物を分け合い、支え合うことができます。今日は持って来ていただいた食料品を神さまにささげ、フードバンク関西を通して分かち合いたいと思います。それだけでなく、私たちクリスチャンは、パウロのように神さまの言葉を聞き、神さまを信じ、いろんな不安を抱えている人や絶望している人に寄り添い、その人の話を聞き、「神さまが必ず助けて下さるから大丈夫だよ」と信仰によって励まし、その人のために祈り、支えるような生き方をぜひしていきたいと思います。